

串間市文化財調査報告書第17集

# 市内遺跡発掘調査報告書

1998

宮崎県串間市教育委員会

# 序

串間市内には各種各時代の埋蔵文化財が数多く点在しており、串間市教育委員会ではこれらの保護・教育的活用に努めているところでありますが、近年の開発事業等の増加により埋蔵文化財の保護と諸開発行為との調整が大きな課題となっています。このような状況の中、諸開発行為が市内に点在する埋蔵文化財に影響を与えることが危惧される場合について当教育委員会では事前の試掘調査を実施し、埋蔵文化財の有無・範囲・性格等についての報告書を作成して、協議・調整のための資料としています。

本年度は市内の4地点において試掘調査を実施し、当報告書を刊行することとなりましたが、当報告書が文化財保護への理解に役立つとともに、社会教育・学校教育等の場で広く活用されれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査を実施するにあたってご協力いただきました関係諸機関並びに市民の皆様に対して、心より感謝申し上げます。

串間市教育委員会

教育長 岩 下 斌 彦

# 例 言

1. 本書は、宮崎県串間市教育委員会が国県の補助を得て平成9年度に実施した市内遺跡発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は、市内に所在する遺跡及び遺跡と目される地点のうち、大字西方字本西方・字師堂庵所在の本西方遺跡ほか3地点について試掘調査を実施した。
3. 発掘調査は、串間市教育委員会が主体となり、同主事宮田浩二が担当した。
4. 調査組織は以下のとおりである。

調査主体 串間市教育委員会

教 育 長 岩 下 誠 彦

生涯学習課長 山 田 隆 夫

生涯学習課長補佐 今 村 勝 哉

文化振興係長 川 上 哲 二 (庶務担当)

主 事 宮 田 浩 二 (調査・執筆・編集担当)

調査指導 宮崎県教育委員会文化課

5. 遺跡の名称は小字名あるいは通称による。
6. 出土した遺物は串間市教育委員会で保管している。

## 本文目次

第Ⅰ章 桑木地点の調査	
第1節 調査地点の位置と環境	1
第2節 調査に至る経緯	1
第3節 調査の内容	1
第4節 小結	1
第Ⅱ章 与願寺地点の調査	
第1節 調査地点の位置と環境	3
第2節 調査に至る経緯	3
第3節 調査の内容	3
第4節 小結	3
第Ⅲ章 本西方遺跡の調査	
第1節 遺跡の位置と環境	5
第2節 調査に至る経緯	5
第3節 調査の内容	5～6
第4節 小結	6
第Ⅳ章 大東平原地点の調査	
第1節 調査地点の位置と環境	8
第2節 調査に至る経緯	8
第3節 調査の内容	8
第4節 小結	8
報告書抄録	14～15

## 挿図目次

第1図 桑木地点位置図	2
第2図 桑木地点概要図	2
第3図 与願寺地点位置図	4
第4図 与願寺地点概要図	4
第5図 本西方遺跡位置図	7
第6図 本西方遺跡概要図	7
第7図 大東平原地点位置図	9
第8図 大東平原地点概要図	9

## 図版目次

図版1 トレンチ状況写真	10～13
--------------	-------

# 第Ⅰ章 桑木地点の調査

## 第1節 調査地点の位置と環境

調査を実施した桑木地点は串間市大字西方字桑木に所在する。当地は市内最大の平地である福島平野を南北に縦貫する福島川沿いの右岸に形成された標高約10mのシラス台地上にあり、調査地点は福島川に程近い台地の縁辺部にあたる。歴史的な環境としては、これより500m程北上すると中近世の城郭である榑間城の城域となり、当地も古くより串間地方の中心地として土地活用されてきた地域に取り込まれている。当地は、現況として国道22号線に面した平坦な畑地となっている。

## 第2節 調査に至る経緯

この地域は前述のとおり古くより土地活用されてきた。現在はそのほとんどが宅地となり、調査地にもこの計画がある。そこで当教育委員会では事前の試掘調査を施すこととした。調査は平成10年1月26日から1月30日にかけて実施した。

## 第3節 調査の内容

試掘調査は、対象地に計9本のトレンチ（3m×1m標準）を設定して実施した。各トレンチの状況は以下のとおりで、当地の基本的な層序は次のとおりである。

I層：表土ないし耕作土 II層：黒色土 III層：ボラ混入黒色土 IV層：アカホヤ  
V層：暗褐色土 VI層：薩摩火山灰層（ブロック状）VII層：黒色ブロック混入褐色土

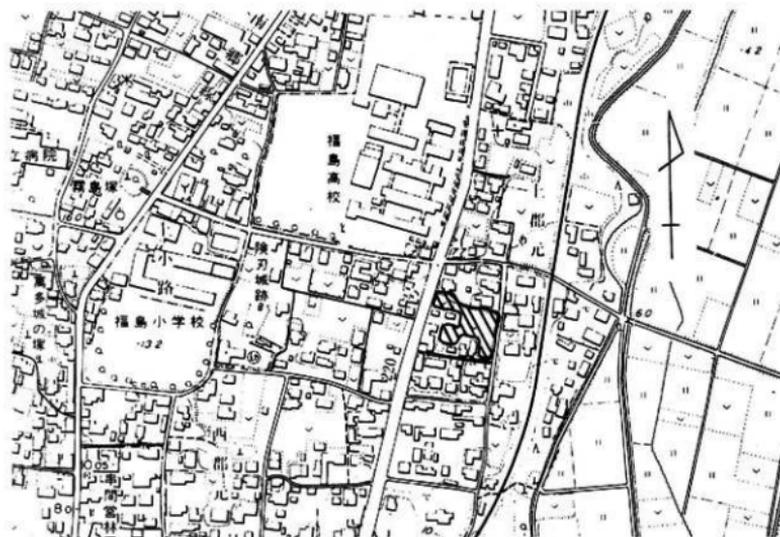
- Tre.1：約20cmの表土の下層は黒色土層で、この2層にのみ若干量の土器小片が含まれる。これ以下では薩摩火山灰以下の黒色ブロックの混入する褐色土層までを調査しているが、遺構・遺物は直に認められない。
- Tre.2：表土は約30cmあり、直下の黒色土層が弥生時代から平安時代にかけての土器・土師質土器を含む。また、アカホヤ面でII層からのピット状の落込が検出されたが、人工的なものかは確認できなかった。
- Tre.3：過去に造成を受けた様子で、一部でアカホヤ底部までが攪乱されている。部分的に残存するII層黒色土で若干の遺物が出土している。
- Tre.4：Tre.3に同様でアカホヤまでが造成の影響を受けている。遺物はI・II層の若干量のみ。
- Tre.5：アカホヤ上位までが削平され、客土が施されている。I層のみで染付等の遺物を含む。
- Tre.6：表土直下は底部のみが残存するアカホヤで、II・III層は削平されて消滅している。遺構の検出、遺物の出土は見られない。
- Tre.7：数回にわたる造成の痕跡が認められ、V層までが影響を受けている。造成土中より近世から近代にかけての陶器類が出土。
- Tre.8：V層までに影響する造成が認められ、造成土中から陶器が多く出土。
- Tre.9：V層までが削平を受け、その上に客土が施されており、遺構の検出、遺物の出土は見られない。

## 第4節 小結

各トレンチの状況から、当地は旧地形ともに平州面で、北西部で土層の良好な残存状況を示すものの全体的にはIV層アカホヤまでに影響する造成ないし削平が著しく認められ、弥生時代から平安時代の遺物を含む包含層は存するもののその面積は些少なものとと思われる。また、表土中での陶磁器の出土量が多いが、これは近世から近代にかけて当地に住宅が存在したことによるものである。なお、遺構については明確なものは確認していない。



第1図 桑木地点位置図 (1/25000)



第2図 桑木地点概要図 (1/5000)

## 第Ⅱ章 与願寺地点の調査

### 第1節 調査地点の位置と環境

調査地点は中間市大字北方字与願寺に所在する。当地は福島川と大欠取川の合流点にほど近く、山稜から西向きに突き出した標高約20mの小台地である。小字名が示すように当地周辺には寺院があったようで、調査地点の東側には僧侶（近世）の墓標が残されている。また、東側の山稜頂上部には中世山城の床稲城跡が存し、福島川を挟んだ対岸には中間神社がある。調査地点の現況は畑地である。

### 第2節 調査に至る経緯

調査地点周辺では、道路の高さに合わせるための地下げが進行しており、調査地点でも同様の計画があるため、当教育委員会では事前の試掘調査を施すこととした。調査は平成10年2月2日から2月4日にかけて実施した。

### 第3節 調査の内容

試掘調査は、対象地に計4本のトレンチ（3m×1m標準）を設定して実施した。当地での基本的な層序はⅢ層までを確認しており、Ⅰ層；表土 Ⅱ層；黒色土 Ⅲ層；褐色土である。なお、これ以下は砂礫層となる。各トレンチの状況は以下のとおりである。

Tre.1；Ⅰ層表土（約20cm）の下層は10～50cm幅の厚さでⅡ層黒色土が堆積しており、旧地形は西へ傾斜している。Ⅲ層褐色土は70cmの深さまでを調査しており、遺物としては各層で少量の上器片が出土している。遺構は認められない。

Tre.2；上層の層序についてはTre.1と同様であるが、Ⅱ層は厚く約70cmが堆積している。遺物は表土中の土器少量のみ。

Tre.3；土層の層序、状況はTre.1とほぼ同様、遺物の出土は認められない。

Tre.4；土層の層序、状況は他のトレンチとほぼ同様である。遺物は特に出土していないが、Ⅲ層下位、南壁で拳大の角礫のまとまりを検出する。礫に変色はなく、土坑も認められない。

### 第4節 小結

調査地点は、地元民を中心に古くより土器等の遺物の出土する場所として知られており、試掘調査前の表面採集でも土師質土器等が良好に散布していた。試掘調査の結果としては包蔵される遺物量は僅かであり、土層の状況からも主たる包含層が削平されている可能性があるが、取扱には注意を要するものと思われる。



第3图 与願寺地点位置图 (1/25000)



第4图 与願寺地点概要图 (1/5000)

## 第三章 本西方遺跡の調査

### 第1節 遺跡の位置と環境

本西方遺跡は串間市大字西方字本西方に所在する。当地は福高平野の西部を流れる善田川中流域の右岸に形成された標高約20mのシラス台地で、現在はその殆どが畑地として利活用されている。本西方地区は歴史的に福島地方の要所で、元禄年間の高鍋藩福島絵図には古陣跡との記述があり、調査地付近の山林中には巨大な五輪塔2基（市指定文化財）が所在する。調査地より善田川を挟んで東に望む善田原台地には、昭和62年より平成元年にかけて宮崎県教育委員会によって発掘調査された古墳時代の唐人町遺跡、昭和28年に発掘調査された銭亀塚古墳があり、また、当地でも平成5年の大雨の際に北東部の一部が崩壊し、土師器・須恵器等が多く採取されている。

### 第2節 調査に至る経緯

当地は、面積の大半が甘藷・煙草等を作付する畑地として活用されているが、こうした畑地では地方回復を目的に深い土層を地表に掘り上げるいわゆる「天地がえし」が勵行されている。「天地がえし」は各農家において独自に行われるため実施以前の把握が困難であり、当教育委員会では遺跡の範囲・性格等を確認し事前の協議資料とするため試掘調査を実施した。調査は平成10年2月4日から2月13日にかけて実施した。

### 第3節 調査の内容

試掘調査は、遺跡及びその可能性のある周辺部について計8本のトレンチ（3m×1m標準）を設定して実施した。ここでの基本的な層序はⅥ層までを確認しており、Ⅰ層；表土 Ⅱ層；黒色土（部分的に御池ボラが混入）Ⅲ層；褐色土 Ⅳ層；アカホヤ Ⅴ層；硬質黒色土 Ⅵ層；褐色土で、これ以下はAT層になる。各トレンチの状況は以下のとおりである。

- Tre.1；Tre.1・2は調査地の中で標高の最も高い平坦部に設定した。Ⅰ層表土（約30cm）の下層はⅡ層黒色土、Ⅲ層褐色土でこの2層が縄文土器、土師器、布痕土器を含む。これ以下はAT層となり、AT面での旧地形はほぼ平坦である。
- Tre.2；Ⅰ層表土（約30cm）の下層はⅡ層黒色土（御池ボラを含む）、Ⅲ層褐色土となり、旧地形は南へ傾斜する。地表より約170cmの深さでAT層となるが、この表面で住居跡プランが検出され、埋土中から土師器が出土している。包含層としてはⅡ・Ⅲ層が遺物を良く含み、縄文土器、弥生土器、土師器、焼石等が出土している。
- Tre.3；納骨堂下段の畑地に設定したトレンチで、Ⅰ層表土及び造成土（1m～50cm）が厚く、下位にはⅡ層黒色土、Ⅲ層アカホヤが見られ、旧地形は東方向に傾斜している。遺物はⅠ・Ⅱ層に多く含まれ、縄文土器・土師器・須恵器・陶器・打製石斧2点等が出土しており、Ⅱ層については自然堆積ではない可能性が高い。また、Ⅰ層上位では大小様々な円礫・角礫（赤変が激しい）で構成される礫群が検出され、これは南北方向に延長してゆく可能性がある。なお、礫群中には五輪塔の空風輪部2個体が含まれていた。
- Tre.4；調査地の内、東向き（善田川方向）の段々畑の中位に設定した。Ⅰ層表土（約30cm）の下層は厚い黒色土で、以下はⅢ層アカホヤ、Ⅳ層暗褐色土となり、旧地形は東に傾斜する。遺物は表土中で縄文土器、土師器、土師質土器、陶器。
- Tre.5；Tre.4の北側に平行して設定。Ⅰ層表土（約30cm）の下層にⅡ層造成土（AT・シラ

ス)が見られ、これにより平坦に整地されている。これ以下はⅢ層黒色土、Ⅳ層アカホヤ、Ⅴ層暗褐色土となり、旧地形は東に傾く。遺物はⅠ・Ⅱ層で土師器、須恵器、土師質土器。

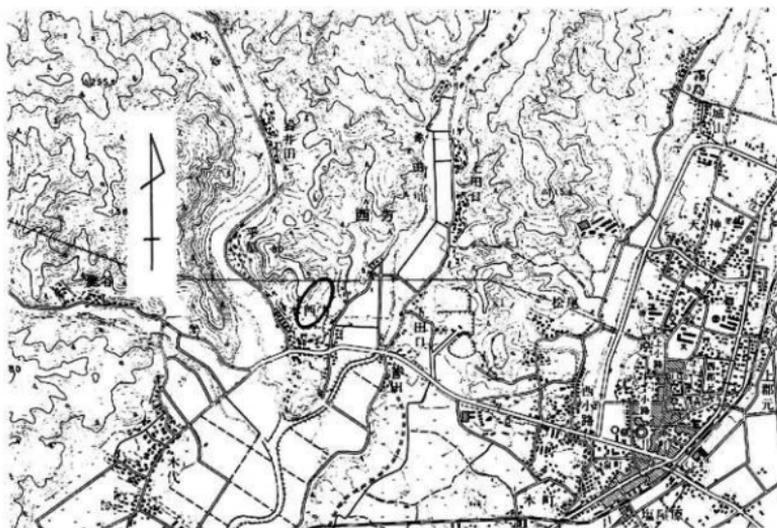
Tre.6 ; Tre.6・7は調査地の南端、台地の縁部に設定した。Ⅰ層表土ないし耕作土(約50cm)の下層はAT層で、土層の殆どは削平されたものと思われる。遺物は表土中の土器小片のみ。

Tre.7 ; Ⅰ層表土(約40cm)の下層には部分的にⅡ層黒色土(約10cm)、Ⅲ層アカホヤ(底部のみ)が見られ、以下はⅣ層褐色土(約30cm)、AT層となる。旧地形は南へ傾き、アカホヤ直下まで削平を受けている。遺物は表土中の土器少量のみ。

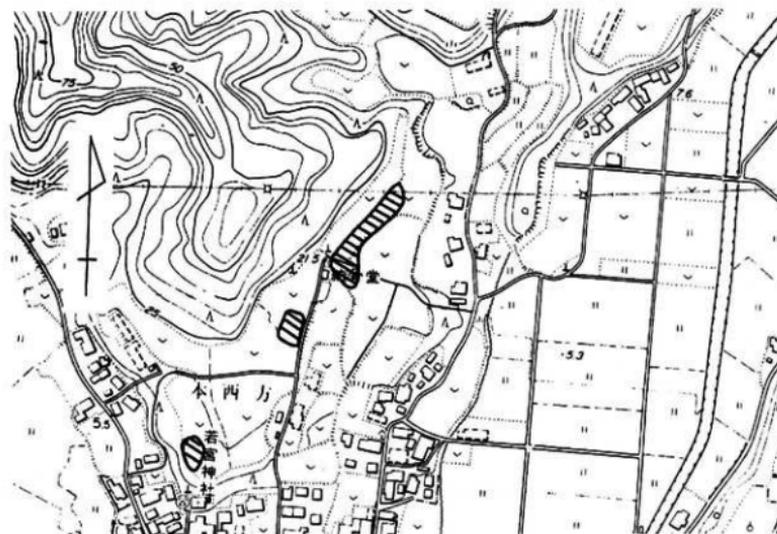
Tre.8 ; Tre.5の北側に平行して設定。Ⅰ層表土の下層はAT・シラスによる造成土で、遺物は表土からの土器少量のみ。

#### 第4節 小結

各トレンチでの状況を総合すると、遺跡は台地の縁辺部を除いたほぼ全域に展開するものと思われ、標高の高い平坦部を中心に古墳時代の住居跡等の遺構が存在し、土層は明分化できないものの縄文時代から古墳時代を主とした遺物が多量包蔵されるものと目される。また、第1節で前述した歴史的背景を考え併せると、今回は確認できなかったが中近世の遺構についても注意を要するものと思われる。



第5図 本西方遺跡位置図 (1/25000)



第6図 本西方遺跡概要図 (1/5000)

## 第IV章 大東平原地点の調査

### 第1節 調査地点の位置と環境

調査地点は中岡市人字奈留字西ノ園に所在する。当地は福島川の支流である大平川の左岸に形成されたシラス台地上で、当地地は大平川方向へ緩やかに傾斜しているが、調査地点はこの台地のほぼ頂上部（標高約80m）に当たる。当地域には縄文時代を主とした遺跡が多く点在し、代表的な遺跡としては調査地より山稜を挟んだ北東側の奈留川流域で昭和61年度より発掘調査された奈留地区遺跡（縄文時代早期を主とした5遺跡）、調査地より1kmほど下流に所在する縄文時代草創期・早期の西ノ園遺跡等がある。調査地の現況は畑地である。

### 第2節 調査に至る経緯

調査地の所在する地域は、広大な台地を利用しての甘藷の作付けが盛んで、第III章の本西方遺跡と同様に地方回復を目的とする「天地がえし」が広く行われている。調査地もこの計画がある地点で、当教育委員会では事前の試掘調査を実施することとした。調査は平成10年2月16日から2月17日にかけて実施した。

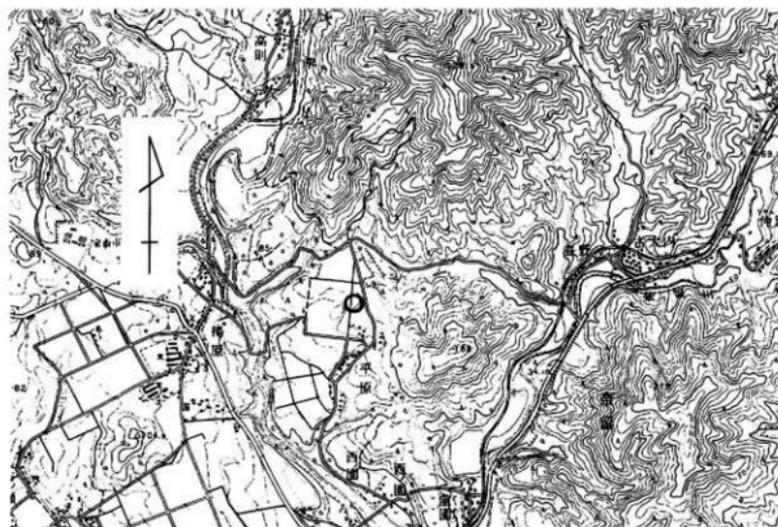
### 第3節 調査の内容

試掘調査は、調査地の計5本のトレンチ（3m×1m標準）を設定して実施した。各トレンチの状況は以下のとおりである。

- Tre.1：調査地の北西隅に設定した。I層表土（約10cm）の下層には厚い客土（約1m）が見られ、これ以下はⅢ層御池ボラ混入黒色土、Ⅳ層アカホヤ、Ⅴ層黒褐色土となる。Ⅳ層以下の堆積状況は良好で、旧地形は西方向へやや傾くが、遺構の検出・遺物の出土を認められない。
- Tre.2：上層の状況はTre.1にほぼ同様で、旧地形は平坦。遺物はアカホヤ下層のⅤ層黒褐色土での焼石のみ。
- Tre.3：I層表土（約10cm）・Ⅱ層客土（約20cm）の下層はⅢ層御池ボラ混入黒色土、Ⅳ層アカホヤ、Ⅴ層黒褐色土、Ⅵ層黒色土となり、旧地形は平坦で土層の残存状況も良好である。遺物はⅤ層での石鏃1点。
- Tre.4：調査地の南東隅に設定した。I層表土（約15cm）の下層は、厚く土層が攪乱されており、自然堆積層は認められない。
- Tre.5：I層表土（約20cm）・Ⅱ層客土（約30cm）の下層はⅢ層黒色土、Ⅳ層アカホヤ、Ⅴ層黒褐色土なり、旧地形はほぼ平坦で、土層の残存状況も良い。遺物はⅤ層の焼礫数点。

### 第4節 小結

各トレンチの状況から、当地ではアカホヤより上位層については削平ないし客土が目立ち、文化層は認められない。これに対してアカホヤより下位層は残存状況が良く、旧地形は殆ど平坦で、極少量ではあるが遺物も出土していることから、取り扱いについて留意すべきであるものと思われる。



第7図 大東平原地点位置図 (1/25000)



第8図 大東平原地点概要図 (1/5000)

図版1 トレンチ状況写真



桑木地点Tre.1



桑木地点Tre.2



桑木地点Tre.3



桑木地点Tre.4



桑木地点Tre.5



桑木地点Tre.6



桑木地点Tre.7



桑木地点Tre.8



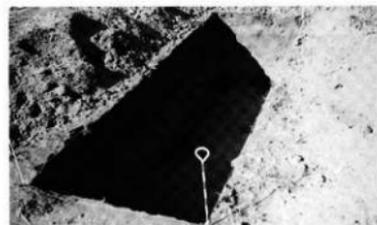
桑木地点Tre.9



与願寺地点Tre.1



与願寺地点Tre.2



与願寺地点Tre.3



与願寺地点Tre.4



本西方遺跡Tre.1



本西方遺跡Tre.2



本西方遺跡Tre.3



本西方遺跡Tre.4



本西方遺跡Tre.5



本西方遺跡Tre.6



本西方遺跡Tre.7



本西方遺跡Tre.8



大東平原地点Tre.1



大東平原地点Tre.2



大東平原地点Tre.3



大東平原地点Tre.4



大東平原地点Tre.5

# 報 告 書 抄 録

フリガナ	シナイイセキ
書名	市内遺跡発掘調査報告書
シリーズ名	串間市文化財調査報告書
シリーズ番号	第17集
編集者名	宮田浩二
発行機関	宮崎県串間市教育委員会
所在地	宮崎県串間市大字西方6524-58
発行年月日	平成10年3月31日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
クワノキ 桑木地点	クシマ ニシカタ 串間市大字西方 クワノキ 字桑木	31° 27' 50" 付近	131° 14' 10" 付近	19980126 } 19980130	27m <sup>2</sup>	宅地化計画
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
	弥生・平安・近世	なし		土器・土師質土器		
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ヨガンジ 与願寺地点	クシマ キタカタ 串間市大字北方 ヨガンジ 字与願寺	31° 28' 40" 付近	131° 15' 00" 付近	19980202 } 19980204	12m <sup>2</sup>	土取り計画
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
散布地	古墳・近世	なし		土師器・須恵器 磁器・陶器		
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ホンニシカタ 本西方遺跡	クシマ ニシカタ 串間市大字西方 ホンニシカタシドウアン 字本西方・師堂庵	31° 28' 00" 付近	131° 12' 50" 付近	19980204 } 19980213	24m <sup>2</sup>	天地がえし
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
包蔵地	縄文・古墳・中世	古墳時代住居跡		縄文土器・土師器 須恵器・土師質土器		

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
オオツカヒラハル 大東平原地点	クシマ ナル 串間市大字奈留 ニシノソノ 字西ノ園	31° 40' 30" 付近	131° 14' 50" 付近	19980216 { 19980217	12m <sup>2</sup>	天地がえし
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
	縄文早期	なし		石鏃		

申間市文化財調査報告書第17集

市内遺跡発掘調査報告書

1998年3月

発行 申間市教育委員会  
印刷 (有)申間新生社印刷